

学生施設群に屋外パブリックスペースを設け 学生サービスを向上し、交流を誘発する

島根大学 ビビットプラザ



◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

- 学生サービスのより一層の充実・向上を図る
- 学生同士の交流の誘発、屋外での学習等多様な利用を促進する

■計画設計のポイント

「学生センター」と「学生支援センター」をつなぐ

島根大学では「学生センター」に学生支援課・学務課を配置し学生に対する支援を行っていたが、学生サービスのより一層の充実・向上を図るため学生センター横に新たに「学生支援センター」を目的積立金の活用により増築した。その際、学生センターと学生支援センターをつなぐ外部パブリックスペース（ビビットプラザ）も併せて整備し、より幅広い利活用を促進する環境を整備する計画とした。

整備に当たっては、メインストリート沿いに植栽されたゆりの木並木を一部整備し段差のないバリアフリーなアプローチとし、メインストリートからのスムーズな動線を実現した。また、従前からある木製ベンチスペースを、学生支援センターの1階に併設したカフェと一体化した休憩スペースとして再生し、気軽に就職相談や学生生活相談ができる雰囲気を出した。

■整備戦略



キャンパスマスタープランの整備方針

学生支援センターはキャンパスマスタープランにおいて優先的に整備する事業として位置付けられていたものであり、1階にはキャリアセンター、学生生活支援センター、2階には、奨学支援コーナー、相談室、多目的室等を配置している。また、ビビットプラザも「学内の交流を推進するゾーン」として位置付けられていた。

■利用の促進

広場名称の公募

完成した広場の名称について学内の学生・教職員に広く公募した上で決定し、認知度UPを図り、その後の利活用のきっかけとなるよう工夫した。

■施設整備の効果

学生同士が触発し合う交流スペース

学生が集う施設群の周辺に屋外パブリックスペースを設けることで、講義の合間の休憩スペースとして、学生同士が触発し合う交流スペースとして、また、開放感あふれる屋外でのセミナー等様々な利活用が展開されている。

学生満足度の向上・就職相談件数の増加

平成22年度に行った学生満足度調査の「学生（支援）センターの対応」の項目で平成18年度同調査との比較（4段階評価（4点満点））で2.44から2.79と格段に向上した。これは調査項目の中で最も高い増加率であった。

同時期に文科省の学生支援GPとして採択された「学生の自主的活動の評価と教育効果の向上」によって正課以外のサークル活動・ボランティア活動・各種セミナーなどの活動への積極的な参加を学生に促し、自立やコミュニケーション能力の涵養（かんよう）を図るシステムを構築した。学生支援センターは、その窓口としての役割を担っている。

学生の就職相談件数も劇的に増加している。（H20年度 相談件数714件→同H23年度1814件）



学生交流の場、憩いの場



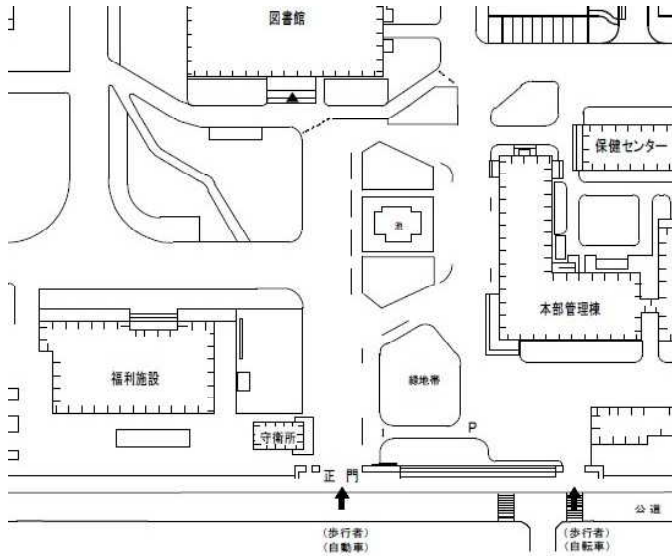
環境教育のランチミーティング

■補足

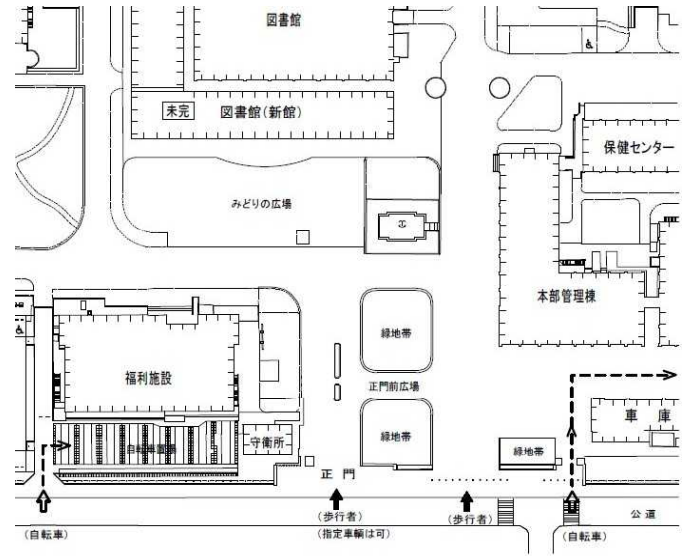
整備年度：平成21年度

正門の動線を整理し、 開放的でゆとりのある空間を整備する

茨城大学 正門前広場



改修前配置図



改修後配置図

◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

○開放的でゆとりある広場を整備し、学生が語らいながら行き来できる外部空間とする

(改修前)
正門より右側・
本部管理棟



(改修後)
正門より右側・
本部管理棟



■計画設計のポイント

動線の整理

自転車置場、駐車場を整備するとともに、歩行者・自転車・自動車の動線を可能な限り分離・整理することを最優先に計画し、正門前広場を安全な歩行者空間とした。

図書館前広場との融合

正門を入れて正面に位置する図書館が大学の象徴的な印象を与えるよう、現在整備中の図書館新館前の広場は、正門前広場との一体感(融合)を考慮するとともに、芝貼りを基本として中・高木の植栽及び建造物の設置は行わないように計画し、ゆとりのある空間の創造を目指した。

■整備戦略

周辺環境と調和した安全快適なキャンパス環境の実現

キャンパスマスタープランに記述されている施設整備の目標である「周辺環境と調和した安全快適なキャンパス環境を整備する」ため、以前から問題視されてきた構内の歩車分離の実現に向けて、学内の交通対策委員会・施設計画専門委員会で解決

策の検討と構内動線の変更に伴う正門前広場の整備の重要性等について協議してきた。そこでの意見を集約し、予算措置を含めた資料を役員会に上げ、採択するに至った。

■利用の促進

学生の動線に配慮

正門近くには福利施設と図書館という学生が多く利用する施設が隣接することから、歩行者の動線計画においては、特に学生の動きに配慮した。

■施設整備の効果

安全に語らうことができるキャンパスの実現

歩行者・自転車・自動車の動線が分離されたことにより、正門前広場は、以前と違ってゆとりある空間へと変わり、歩行者が安全に歩行、語らうことができるようになっている。

■補足

整備年度：平成24年度

天候に左右されない屋根に覆われた パブリックスペース

金沢大学 自然科学本館(アカデミックプロムナード)



アカデミックプロムナード



アカデミックプロムナードから中庭を望む

◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

- 学類生・院生・教員などのコミュニケーションを育む
- 自学・自習を促す

■計画設計のポイント



関連部局を一体化

自然科学本館は、自然科学系教育研究の発展・推進のための総合教育研究施設として総合教育を行う講義室・ゼミ室などを整備したものであるが、角間Ⅱキャンパスで活動する人々の動線を整理し、関連部局が一体化するためのポイント空間として、校舎群を接続するアカデミックプロムナードを設けた。

アカデミックプロムナードを雁行(がんこう)させることで、本施設の表情を奥行きと変化を感じさせるものとし、内部空間にリズム感とスケール感を与えるものとした。

天候に影響されずに交流を生む

アカデミックプロムナードは屋根に覆われた公共空間である。雨や雪の日も濡(ぬ)れずに移動が可能で、天候に影響さ

れず、常に人の流れをつくり出し、自然に人が集い、様々な交流が生まれる空間である。

自然を取り込む

アカデミックプロムナードは、自然通風・自然採光を可能とした3層吹き抜けのアトリウム空間である。

中庭に面して視線を遮るものがなく、学生の休息や語らいの場となる。

■整備戦略

施設長期計画書

角間Ⅱ期移転整備事業として、施設長期計画書により整備したものである。

■利用の促進

コミュニケーションの推進

テーブル・椅子及び共用パソコンを設置し、学生の自学・自習や教職員などのコミュニケーションの場として利用するほか、学会、講演会、地域の児童生徒等を対象としたイベントなどでは研究内容を紹介するパネル展示やポスターセッションに活用している。

■施設整備の効果

多目的に活用

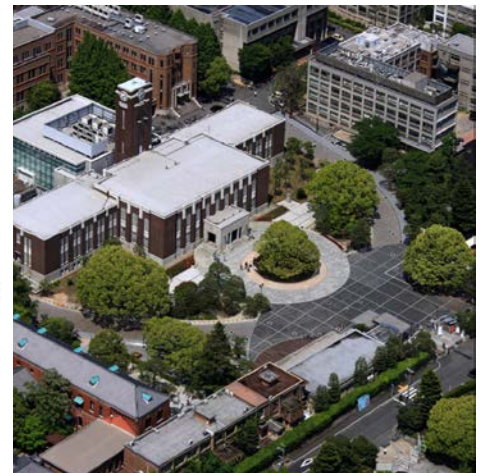
各分野の研究の歴史や成果などを展示・広報するファカルティホールやギャラリーとしての利用など、多目的に活用している。(公開講座370時間/年、講演会1,027時間/年)

■補足

整備年度：16年度～17年度

創立当初からの景観を継承し パブリックスペースを充実する

京都大学 時計台周辺環境整備



◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

- 創立当初からの景観を継承した上で、パブリックスペースを充実させる
- 学生、教職員、地域の方々にぎわい・交流の場を創出する
- 地球環境に配慮したキャンパスを形成する

■計画設計のポイント

シンボル性の強調

京都大学吉田キャンパス本部構内の京都大学正門（登録有形文化財）から京都大学のシンボルタワーである百周年時計台記念館、東西教育研究棟へのアプローチの整備で、京都大学のシンボルマークとなっているクスノキまわりを中心とした屋外環境整備である。

軸線に沿って外構形状を整備し、全体を落ち着かせ、シンボル性を高めるよう計画した。

パブリックスペースの充実

「自重自敬の溜（た）まり場」、「調和・共存の広場」、「自得自発の広場」、「全学とつながるバスターミナル」、「オープンランチテラス」を整備し、パブリックスペースの充実を図った。

○動線の整備：車両動線を固定し、舗装を動線の種類によって分け、自立的に秩序化されることを促す。

○バス停場所の整備：キャンパス連絡バス停留所を時計台前の景観から外して設定し、車両入場管理ゲートと合わせて整備する。

○自転車置場の整備：構内に溢（あふ）れる自転車の置き場所を緑地の中につくり、利便性を確保した上で景観を保つ。

○外来者もくつろげる仕掛け：レストランの前などにくつろげる溜（た）まりを作る。

地球環境に配慮した照明計画

全ての照明にLEDを採用し、素材の一部には木質複合木材を



用いるなど環境面への充実を図る。創立当初の照明器具を復元し、質の高い環境をつくる。

■整備戦略

環境賦課金制度

京都大学では、環境賦課金制度を導入し、部局ごとに消費したエネルギーに対して一律の賦課金を課し、その財源に本部からの同額程度の資金を追加し、省エネルギー、CO2削減に寄与する改修工事を実施している。本事業の一部もこの制度を利用している。



■利用の促進

イベント利用可能な広場として設定する

車両動線を強調せず、クスノキ前のオープンスペースを意識させる舗装とするなど、イベント利用に配慮している。

■施設整備の効果

交流の場

時計台前周辺のオープンスペースでは、各種イベントやサークル活動が行われる等、学生、教職員、地域の方々の溜（た）まり場・交流の場として活用されている。また、優れた省エネ効果を達成すると同時に魅力的な空間となっている。



■補足

整備年度：平成22年度～平成23年度

平成24年度省エネ・照明デザインアワード優秀事例